

カザフスタンにおけるカザフ語振興政策とラテン文字化の今後の展望

有田 将也 奥田 遼太 佐藤 匡恭 實盛 将城 洲脇 仁 洲脇 佑哉

要旨

カザフスタンのカザフ語振興政策の理由について調べ、ラテン文字化への今後の展望について予測した。

キーワード：カザフ語，カザフスタン，ロシア，キリル文字，ラテン文字，

1 序論

偶然、トルコ語の文字政策を知る機会があり、トルコ語は文字をアラビア文字からラテン文字へと変換していることを知った。そこで、国際情勢などに合わせて自国の文字を新たな文字へと変換しようとしている国が他にないかと興味を持ち調べてみた。すると、カザフスタンに似たような事例があることが分かり、調べることにした。

2 カザフスタンの言語政策の現状

1991年にソ連から独立したカザフスタンは、カザフ語を国語、ロシア語を公用語とした。しかし、現状はカザフ語が話せる人が人口のほんの6割で、一方でロシア語は国民のほとんどが話すことのできる状況である。また、カザフスタンでは、ソ連編入以前は、ラテン文字を使用していたが、ソ連編入の後、キリル文字が使われるようになった。そして、独立から20年以上がすぎ、ラテン文字化への文字改革を求める声が高まってきていたが、現在それに関する政策は何もなされていない。

3 仮説の設定と検証

(1) 仮説の設定(カザフスタンがカザフ語を振興する理由)

1. カザフスタン政府は、カザフ民族にとって住みやすい社会を形成し、カザフ民族主導の国づくりをしようとしているのではないのか。
2. ソ連時代への忌避からロシア語を使うことを避けようとしているのではないのか。

【仮説】 ソ連時代の過去を消し去り、独立国としてカザフ民族主導の新たな国の形成をしようとしているのではないだろうか。

(2) 検証方法

インターネット，文献調査

(3) 結果

【仮説①に対する結果】

カザフスタンは、1997年から在外カザフ民族に対して呼び戻し政策を実施し、積極的に母国に呼び戻そうとしており、その成果はグラフ1から読み取れる。また、帰国したカザフ民族に対して経済的な優遇をすることで、カザフ民族が住みやすい環境を形成している。しかし、カ

3組1班

ザフスタンは民族差別をする気はないとし、ロシア人の存在を認めているが、将来の不安から流出するロシア人が増えている。このようなことなどから、カザフスタンはカザフ民族主導の国を確立しようとしていることが読み取れる。

【仮説②に対する結果】

ソ連時代には、カザフ民族にとってアルマアタ事件など悲しい過去はあるが、今でもロシア語を公用語とし、ロシア民族に対する追い出し政策は行っておらず、貿易のロシアへの依存度は高くソ連時代への忌避は政策としては全く反映されてないと判断した。

4 結果からのこれからの展望

カザフスタンの文字改革はいつか行われると予測した。

理由は図1とグラフ1の二つからである。

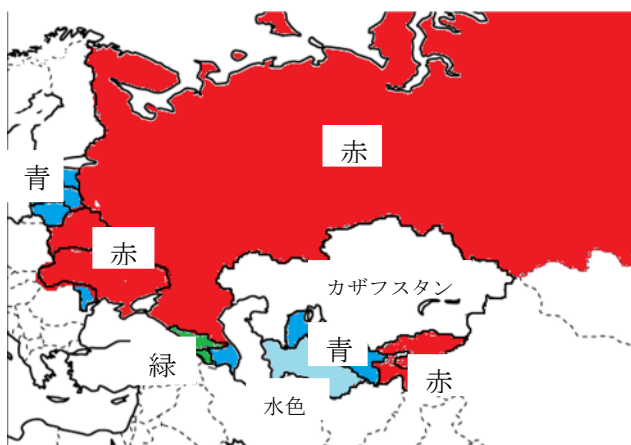
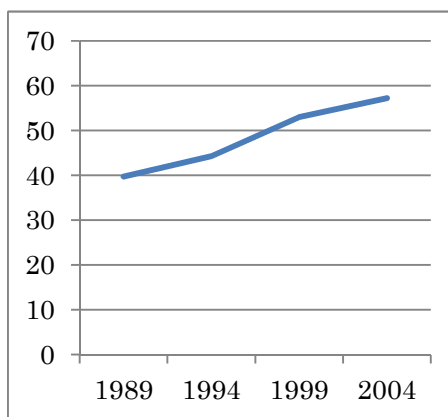


図1 ソ連から独立した国での
現在使っている文字

(赤；キリル文字 青；ラテン文字化達成 水色；ラテン文字化途中 緑；キリル文字からラテン文字以外への変換)



グラフ1 カザフスタン内の
カザフ民族の割合の推移

図1よりソ連から独立した周りの多くの国がラテン文字化していることがわかる。また、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアやアフリカの多くの国でもラテン文字が使われている。このことからカザフスタンはラテン文字化することで、利益が出ると考えられる。

したがって今後、カザフスタンはカザフ語で使う文字をキリル文字からラテン文字に変える政策を実施するであろうと予測した。

【参考文献】

- ・データブック・オブ・ザ・ワールド—世界各国要覧と最新統計（1996～2012年）、二宮書店
- ・浅村卓生：カザフスタンにおける自国語振興政策及び文字改革の理念的側面（外務省月報、2011）
- ・岡奈津子：カザフスタンにおける民族運動の翼賛化（アジア経済研究所、2003）